

記 入 日 2012 年 1 月 10 日

1. 概 要

実践団体名	糸魚川市立根知小学校		
連絡先	025-558-2100		
プランタイトル	根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育		
プランの対象者※1	小学生（低学年） 小学生（高学年） 地域住民	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

- ①従来のジオパーク学習と地域（住民）にかかわる教育活動に防災教育の視点を加え、教育活動を整理・体系化し、市内の学校へモデルプランを提案する。
- ②防災についての研修を地域に働き掛けながら進め、地域防災の連携及び体制強化を図る。

【プランの概要】

- ①糸魚川市が世界に誇る自然環境（ジオパーク）は、地域の歴史であり、宝であり、生活環境そのものである。ジオパークとしての根知地区の抱える自然災害の現状とその対策の方法を理解し、そこで営まれる主要産業である農業、また大事に継承されてきた伝統文化について知り、これからのあり方や自分の生き方などを考える。
- ②ジオパークに位置する地域特有の土石流や地滑り災害、活断層上に位置する土地ならではの危険性を地域住民とともに再認識し、学校・地域防災の在り方を考える。
- ③これまでの学校教育活動を防災教育の視点から再構成し、これまで以上に児童が「自分の命は自分で守る」という意識を高める。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ①地域と学校が、防災教育を共通話題とすることで、地域と学校の連携が深まる。
- ②学校が防災教育にチャレンジすることで、地域の自主防災組織の立ち上げの起爆剤となる。

2. プランの年間活動記録 (2011 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	<ul style="list-style-type: none"> 全体プランの検討 (職員会議) P1 の検討 (職員会議) 		
5 月	<ul style="list-style-type: none"> 全体プランの協議 (地域防災懇談会) P2.3 の検討 (職員研修) 		P1:5/9 避難訓練①・ジオパークと自然災害についての学習会・地域防災懇談会① P2・3:総合的な学習の時間の探究開始 5/15 根知振興協議会 (自主防災組織立ち上げに向けて)・地域防災懇談会② 5/27 防災頭巾寄贈式
6 月		P4 の関係機関との連絡調整	P4:6/30～7/1 防災宿泊体験学習 (避難訓練②)・地域防災懇談会③
7 月			
8 月	<ul style="list-style-type: none"> P5 のプランについての検討 	P5 の関係機関との連絡調整	
9 月			P5:9/21 防災教室 (土砂災害の仕組み・砂防について、家庭で災害が起きた場合の対応について)・地域防災懇談会④
10 月	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表会 P6 のプランについての検討 	P6 の関係機関との連絡調整	P2・3:総合的な学習の時間の成果の発表 (文化祭)
11 月	<ul style="list-style-type: none"> プランのまとめと次年度に向けたプランの立案 	P7 の関係機関との連絡調整兼次年度プランへの意見聴取	P6:11/21 避難訓練③・職員研修 (火災時の対応)
12 月			P7: 公民館大会・地域防災懇談会⑤
1 月			避難訓練④ (地域防災懇談会⑥)
2 月	<ul style="list-style-type: none"> 最終報告会 		
3 月			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：1-①】※3

タイトル	ジオパークと自然災害についての学習会
実施月日（曜日）	5月9日（月）
実施場所	根知小学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：外部講師 氏名：竹之内 耕 所属・役職等：フォッサマグナミュージアム学芸員
所要時間または「コマ数×単位時間」	30分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2学習会
活動目的※5	6防災に関する知識を深める
達成目標	自分たちが住む地域におけるジオパーク特有の自然災害について理解する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	●地域防災懇談会メンバー立会いのもとに避難訓練①（震度4程度の地震を想定）を実施 ●児童及び地域防災懇談会メンバーを対象に「ジオパークと自然災害」をテーマとした学習会を実施
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・フォッサマグナミュージアム学芸員 ・プロジェクタ、スクリーン、パワーポイント資料
参加人数	児童32名 地域防災懇談会（根知振興協議会）メンバー12名 職員7名
経費の総額・内訳概要	5,500円 講師謝礼・交通費
成果と課題	【成果】 ・地域に起こりやすいジオパーク特有自然災害にはどんなものがあるのかの概略を理解することができ、総合的な学習の時間における地域材の探究活動の際に、防災の視点を意識しやすくなった。 【課題】 ・平日に開催したため保護者の参加がまったくなかった。
成果物	・防災通信②

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 1-②】※3

タイトル	地域防災懇談会①
実施月日（曜日）	5月9日（月）
実施場所	根知小学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 担当者（教頭）・外部講師 氏 名：小林 正広 所属・役職等：糸魚川市消防本部防災室防災係長 氏 名：松縄 隆之 所属・役職等：糸魚川市教育委員会指導主事
所要時間または「コマ数×単位時間」	40分
プログラムのカテゴリ、形式※4	17 その他（懇談会）
活動目的※5	8 防災意識を高める 10 その他（関係機関との連携）
達成目標	・学校における避難訓練を客観的に評価し改善する。 ・防災とジオパーク、地域・住民の3つの視点から防災教育を進めていくことを地域住民（関係機関）が理解する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	●地域防災懇談会メンバー立会いのもとに避難訓練①（震度4程度の地震を想定）を実施 ●児童及び地域防災懇談会メンバーを対象に「ジオパークと自然災害」をテーマとした学習会を実施 ●避難訓練の評価や今後の取組についての協議会（地域防災懇談会①）を実施
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・市消防本部防災室職員、市教育委員会指導主事
参加人数	地域防災懇談会（根知振興協議会）メンバー12名 職員3名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・これまで自己評価で終わっていた避難訓練については、複数の目から客観的な評価をしてもらい、多くの改善点が指摘された。 ・地域防災懇談会への出席率が高く、学校と地域が防災というテーマを共有することができた。 【課題】 ・これまで小学生の能力を考え、控え目な避難訓練を行ってきたが、大災害を意識した現実的な訓練を行うよう指摘があり、避難訓練における状況設定についてのハードルが高くなった。 ・平日に開催したため保護者の参加がまったくなかった。
成果物	・防災通信②

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	さがそう！守ろう！根知の宝～ジオパークの文化探検隊～
実施月日（曜日）	5月から12月
実施場所	根知小学校・地域他
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：3・4年担任 所属・役職等：当校職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	70時間（1時間は45分）
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める 10 その他（郷土愛を高める）
達成目標	・地域の文化財について探究する活動を通して、水神様が地域に多いことに気付き、地域の文化財保護と関わらせながら地域の将来について考えることができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・ジオパークと自然災害についての学習会（P1） ・地域探検 ・水神様マップの作成 ・地域のお年寄り（公民館長さん）による水神様と根知の七夕飾りについての講話 ・防災宿泊体験学習（P4）における根知の災害の歴史についての講話、七夕飾りについての発表と七夕作り ・根知の伝統文化（おててこ舞・十二社相撲・能）についての探究 ・伝統文化を継承するために自分たちで考えたプランを文化祭、糸魚川市ジオパーク学習交流会で提案発表
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・根知公民館長 ・老人会
参加人数	3・4年生14名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・地域に多く見られる水神様の祠をマップにまとめ、過去の水害とのかかわりを理解することができた。 【課題】 ・地域の伝統文化と水神様（水害の多かった地域性）をうまく関連付けた単元の指導計画にはならなかった。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	自然と共に生きる！～未来の根知を考え隊～
実施月日（曜日）	5月から12月
実施場所	根知小学校・地域他
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：5・6年担任 所属・役職等：当校職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	70時間（1時間は45分）
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める 10 その他（郷土愛を高める）
達成目標	・地域の自然を生かした産業について探究し、自然と共に生き、地域を盛り上げていくにはどうすべきかを考え、地域に提案することができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・ジオパークと自然災害についての学習会（P1） ・学校田の田植え作業 ・地域探検 ・バケツ稲の栽培 ・学校田の稲刈り作業 ・根知の自然や特産物を生かした伝統文化を継承するために自分たちで考えた根知の未来への提言を文化祭で行った。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・やる米花農業
参加人数	5・6年生11名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・地域の歴史（度重なる地滑り被害と水害）を理解し、ジオパークの自然や地域の特産物を生かした地域興しプランを提言することができた。 【課題】 ・「探究したこと他に“根知の自然（ジオパーク）”と“災害”、“地域の人々の生き方”の3つについても考えることができた」の問いに対して、2割弱の児童が「どちらかというそう思わない」と答えており（否定的な評価）、肯定的な評価が100%になるようすることが課題である。
成果物	なし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	根知っ子防災 10MISSIONS (防災宿泊体験学習)・地域防災懇談会③
実施月日 (曜日)	6月30日 (木)～7月1日 (金)
実施場所	根知地区 (宿泊場所：シーサイドバレースキー場 歩荷茶屋)
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 (教頭)・外部講師 氏 名：山岸 睦雄 所属・役職等：糸魚川市産業部商工農林水産課管理係 主査 氏 名：松縄 隆之 所属・役職等：糸魚川市教育委員会指導主事 氏 名：中村 勉 所属・役職等：小田島建設 専務 氏 名：田上 悦子 他 所属・役職等：山口地区老人会
所要時間または「コマ数×単位時間」	23時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事 2 学習会 13 体験学習 16 避難・防災訓練
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災 4 災害を想定した訓練 5 災害を疑似体験 6 防災に関する知識を深める 7 技術を身につける 9 災害対応能力の育成
達成目標	<p>集団での宿泊体験や10この防災にかかわる課題 (MISSION) の解決を通して、自然災害や災害発生時の対応について理解を深めるとともに、以下の4つの能力を育む。</p> <p>①人間関係形成能力 ・不自由な環境の中でも、自分の感情を抑え他のことを思いやることができる。 ・課題を解決しようと仲間と協力することができる。</p> <p>②意思決定能力 ・自分にできること、できないことを判断し、相手に伝えることができる。 ・集団の中でのマナーを守ることができる。</p> <p>③情報活用能力 ・これまでの経験や新しい知識を思い出し、活動に生かすことができる。</p> <p>④将来設計能力 ・体験したことを日常生活の具体的な場面と関連付けて考えることができる。</p>



<p>実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)</p>	<p>【想定】 ※来年に創立40周年を控え、根知小学校の歴史を訪ねる遠足へ、途中（シーサイドバレー付近）震度6強の地震が発生。交通網が遮断されたため、近くの歩荷茶屋に避難した。歩荷茶屋は、ガスは利用できるが地震の影響で地域一帯が停電状態（水道は夜復旧・・・）となっていた。保護者の迎えを待ったため、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになる。児童は、遠足用の飲み水と万が一の非常食を持参していた・・・ MISSION 1：蒲池地内の地滑りについての学習 MISSION 2：校地外での地震避難訓練 MISSION 3：電気・水のない生活体験 MISSION 4：カードゲームを活用した自然災害発生時対応についての学習 MISSION 5：非常食での生活体験① MISSION 6：避難所を盛り上げる即興スタンプ MISSION 7：非常食での生活体験② MISSION 8：根知の土石流・土砂災害についての学習 MISSION 9：根知の七夕飾りと安全祈願 MISSION X：避難所清掃 ※学校での縦割り班（4グループ）で2日間活動し、班長が中心となって班員をまとめ、安全を配慮して活動した。班同士の連携が大事になるので、班長会議を開催し、避難所内の諸問題やMISSIONの解決を図るよう仕組んだ。</p>
<p>準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川市産業部商工農林水産課管理係主査、糸魚川市教育委員会指導主事、小田島建設専務（地元の建設会社、地域のお年寄り）、山口地区老人会（地域のお年寄り） ・リヤカー、時計付き懐中電灯、2日目の非常食、水ペットボトル他
<p>参加人数</p>	<p>児童31名、職員6名</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>142,732円（宿泊費74,000円、カードゲーム7,970円、講師料・交通費11,000円、七夕飾り受講料24,000円、懐中電灯他18,900円、非常食・水1,903円、養生テープ等消耗4,959円）</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】 ・「この活動では“もしも災害が起きたとき”に役に立つ体験ができたと思う」の問いに対して、全児童が「とてもそう思う」と回答した。 ・市教委指導主事のコメント「先日の宿泊体験学習は私の予想をはるかに超えた立派な活動であったと思います。何よりも印象的であったのは、徹底的に子ども達に考えさせる姿勢を貫き通していた点です。ともすると小学生段階では大人は手のかけすぎ、子どもは指示待ちに陥りがちですが、災害という極限状態の中では考え抜いて知恵を出すこと、臨機応変の対応ができることが何よりも重要になってくると思います。それだけに、今回の根知小の取組はそれらを見据えた先進的かつ実践的な内容であったと思います。我々が考える以上に子どもは可能性と力をもっています。今回、根知小の宿泊体験学習に同行させていただき、あの子ども達なら間違いなく、災害時においても根知の宝として活躍してくれることを確信できました。（後略…）」など ・テレビ局の取材があり、取組の様子を広く紹介することができた。</p> <p>【課題】 ・この活動の後に、児童の振り返りを行わせることが不十分であったことや、この体験を生かした道徳や学校行事を計画的に進めること</p>



	ができなかった。 ・避難所において、予定外の抜き打ち避難訓練を考えてみたが実行しなかった。実施することで、より防災意識が高まったのではないかと考える。
成果物	防災通信④

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	防災教室
実施月日（曜日）	9月21日（水）
実施場所	根知小学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者（教頭）・外部講師 氏 名：渡瀬 智保 所属・役職等：国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所 建設監督官 氏 名：近藤 栄樹 所属・役職等：猪又建設株式会社 土木工事長 氏 名：五十嵐 勝治 所属・役職等：糸魚川市消防本部防災室 防災係主査
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間10分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める 8 防災意識を深める
達成目標	児童、保護者、地域住民を対象とした学習会を開催し、地域に多い土砂災害についてのメカニズムやその対策、家庭にいたときに起きた災害への対処法を理解する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①土石流災害のしくみについて ②根知川上流の砂防対策について ③知っておきたい家庭における災害時の対応
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所建設監督官、猪又建設会社土木工事長、糸魚川市消防本部防災室防災係主査 ・地滑り及び土石流発生模型、実際の土砂災害映像 DVD
参加人数	児童32名 保護者23名 地域防災懇談会メンバー7名 職員7名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・5限の授業参観の後に実施したことにより、保護者の参加率が82%と高く、防災教育を児童だけでなく保護者にも普及することができた。 【課題】 ・知識を学ぶ講義形式の学習は、児童の記憶には残りにくい。
成果物	防災通信⑤

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	避難訓練③（昼休み中に火災発生を想定）
実施月日（曜日）	11月21日（月）
実施場所	根知小学校校舎・ピロティ
担当者または講師	担当者・講師等の区分：安全教育主任 氏 名：阿部 秀晴 所属・役職等：糸魚川市消防本部予防課予防係 副参事
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間15分（+職員研修1時間15分）
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	4 災害を想定した訓練 5 災害を疑似体験 6 防災に関する知識を深める 7 技術を身につける 8 災害対応能力の育成
達成目標	突然の避難訓練（予告なし）において、これまでの経験をもとに、自ら考え判断し適切に行動することができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	※避難訓練の日時・内容を児童に予告せずに実施 ①火災警報機の発砲・非常ベル鳴動（1階西側）－警報機確認－出火場所確認－避難指示放送－避難行動－避難誘導－初期消火・消防署連絡－避難指示2次放送－避難確認－訓練の講評 ②バケツリレーによる消火訓練 ③煙体験（煙発生時の時の避難行動） ④火災発生時の対応についての学習会（児童対象） ⑤火災等災害発生時の対応についての職員研修
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・市消防本部 ・発煙装置、バケツ
参加人数	児童32名 職員9名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・阪神淡路大震災の際に市民で協力してバケツリレーで消火したことや、バケツで水を短時間で効率よく運搬する方法を理解することができた。 ・これまでの避難訓練の経験を生かして、各自で速やかに避難することができた。 【課題】 ・児童に悟られないように実施したため、地域防災懇談会メンバーに様子を見学してもらうことができなかった。
成果物	防災通信⑥

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	公民館大会・地域防災懇談会⑤
実施月日（曜日）	12月4日（日）
実施場所	根知公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者（教頭・根知公民館）・外部講師 氏 名：竹之内 耕 所属・役職等：フォッサマグナミュージアム学芸員 氏 名：茂田井 茂 所属・役職等：新潟県柏崎市米山コミュニティセンター長 氏 名：宮川 高広 所属・役職等：糸魚川市立根知小学校 教頭 氏 名：源馬 幹一 所属・役職等：根知振興協議会 総務
所要時間または「コマ数×単位時間」	3時間10分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる 6 防災に関する知識を深める 8 防災意識を高める
達成目標	根知地域の防災に対する意識を高める。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①日本海の地震と津波についての講演 ②災害と公民館・コミュニティについての講演 ③根知小学校の防災教育チャレンジプランについての説明 ④自主防災組織の設立の取組についての説明
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・フォッサマグナミュージアム学芸員、柏崎市米山コミュニティセンター長、糸魚川市立根知小学校教頭、根知振興協議会総務員 ・パソコン、プロジェクト等
参加人数	地域住民等約100名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・多くの地域住民の他、学校職員、市教育委員会、市消防本部、各地区区長が集まって、防災についての研修を行えたこと。 ・地域住民が自主防災組織の必要性を感じたこと。 【課題】 ・特記事項なし
成果物	・防災通信⑥

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランの立案において、2011年（23年度）は、学級減に伴い職員の定数が1名少なくなることが分かっており、学校行事の精選、校務分掌組織の見直しが求められていた状況の中で、新たに防災教育に取り組むことになったこと。 ・市教育委員会から、応募を勧められてから短期間の間に、市教育委員会と市消防本部の指導を受けながら、協力をいただく根知振興協議会と連絡・相談などの段取りをしなけりばならなかつたこと。 ・糸魚川市ならではのジオパーク学習を防災教育の中核に据えた計画をしなけりばならなかつたこと。 ・根知におけるジオパーク特有の自然災害は土砂災害であり、ハザードマップでは地域のほとんどが危険地帯となっている。過疎化が進行している地域で、危険意識をあおるだけの取組にははいけなかつたこと。 <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童、職員の負担の軽減、短期間での応募であることから、従来の教育活動を防災教育の視点で見直し、体系化することをプランの目的としたこと。
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体指導の立場である市教育委員会と市消防本部との連絡と調整がうまくいけなかつたこと。 ・年間活動計画の中に、新たな宿泊体験行事を位置付けること。 <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・22年度中に社会貢献活動の一環として学校と関わった機関の方々を講師として調整を図ったこと。 商工農林水産課 <ul style="list-style-type: none"> 頭首口完成に伴うアユの稚魚放流活動、水と土の保全活動、田んぼの生き物調査への児童参加の協力依頼 猪又建設 <ul style="list-style-type: none"> 根知川上流の砂防工事を担当し、川や砂防にかかわる学習での協力依頼 小田島建設 <ul style="list-style-type: none"> 理科の流れる水のはたらきにおける学習資料として、根知川の水害の記録写真を提供
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<p>【苦勞した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員1名減に加え、転入職員が1名、管理職から養護教諭の6名で校務を分担する中での新たな挑戦は、(未曾有の震災直後の実践となり、苦しいながらも前向きにこのチャレンジプランに取り組んだが) やりがいとともな大きな負担となつたこと。 ・多忙な中での実践であったため、計画以上の内容になつた部分も少なくはないが、計画した通りには進まない内容が多かつたこと。特に、総合的な学習の時間の取組は、系統立てた探究活動になるよう改善が必要である。 <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当者の原案を検討する中で、できるだけ職員のアイデアを取り入れたこと。 ・防災・宿泊体験学習では、児童受けするようロールプレイングゲームの要素を取り入れ、10のMISSIONを設けたこと。 ・単発のイベントで終わらないよう、複数の活動を関連付けて実施したこと。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	①糸魚川市教育委員会 ②学校評議員	①全体指導
保護者・ PTAの組織	①保護者	①防災・宿泊体験学習の 見学 ②防災教室への参加
地域組織	①根知振興協議会（各地区区長会） ②山口地区老人会	①自主防災組織立ち上 げと地域防災懇談会へ の参加 ②七夕作りの指導
国・地方公共団体・ 公共施設	①糸魚川市消防本部防災室 ②根知公民館 ③糸魚川市産業部商工農林水産課 ④フォッサマグナミュージアム（博物館） ⑤国土交通省北陸地方整備局松本砂防事 務所	①全体指導と避難訓練 等の指導 ②自主防災組織立ち上 げと地域防災懇談会へ の参加、公民館大会の主 催、防災頭巾の制作と寄 贈 ③地滑り学習講師 ④ジオパーク学習講師 ⑤土砂災害のメカニズ ムについての学習講師
企業・ 産業関連の組合等	①小田島建設 ②猪又建設 ③新潟テレビ21（UX21） ④新潟日報、糸西タイムス	①根知の土砂災害学習 講師 ②砂防工事についての 学習講師、リヤカーの寄 贈 ③P4 の取組紹介 ④各取組紹介
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	①新潟恩返し隊	①教職員のボランティ ア活動及びマスメディ アとの仲介
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育チャレンジプランを推進していく上で、地域の振興協議会をはじめ、公民館、さらに地域住民とのかかわりが深まり、手作り防災頭巾を寄贈していただくなど、学校教育に対してこれまで以上に、協力的に活動を支援していただいたこと。 ・これまで何年もの間、自主防災組織の立ち上げが地域で話題になりながらも実現されなかったが、小学校が防災教育チャレンジプランに取り組んだことがきっかけとなり、来年度から自主防災組織が立ち上がることになったこと。 ・実践団体の特色ある取組やその前向きな姿勢に触発されたこと。 ・実践団体との私的な情報交換を通して、防災教育推進上の課題を理解することができたこと。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川市内の学校を代表し防災教育チャレンジプランに取り組んだ。活動の内容は、防災通信にまとめ市内の学校へ配布したり、複数の新聞社に報道を依頼したりし、配信するように心がけた。しかし、他校から十分な理解を得られている手ごたえはなかった。 ・取組の2本柱の一つである「総合的な学習の時間での防災教育の実践」については、何とか防災の視点を取り入れたものの児童評価があまり高くなく、改善の余地があること。 ・防災教育に取り組むことの重要性や防災教育チャレンジプランの実践団体として取り組むことのメリット（貴重な経験と知見を得られること）を市内の学校、教育委員会等に周知し、市内全ての学校が（市をあげて）防災教育チャレンジプラン2012に応募するような働きかけができなかったこと。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育チャレンジプラン2012に応募した。来年度立ち上がる地域の自主防災組織と連携し、学校を避難所とした防災訓練を行う予定である。また、職員研修のテーマを「自ら判断し行動する児童の育成」（仮）とし、防災教育にかかわる内容に特化する。また、一人一研究により、防災教育を推進する。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

2011 年度防災教育チャレンジプランへの応募へ向けて（職員会議資料）

0. 応募までの経緯

- (1) 10月末、市教委から校長へ「防災教育チャレンジプラン2011」の紹介があり、学校及び教職員を取り巻く様々な要因を考慮し、応募する方向で段取りを始める。
- (2) 糸魚川市教育委員会及び糸魚川市消防本部、根知振興協議会会長へ応募の意向を相談し、同意及び協力をお願いする。
- (3) 12月中旬の応募締切に向けて、応募書類（予算を含めた取組計画の立案）を作成するために、地域を巡見したり、関係機関の職員と打ち合わせを行ったりしながら情報収集に奔走する。

根知公民館 糸魚川市産業部商工農林水産課 小田島建設 猪又建設 渡邊酒造

- (4) 取組計画案（以下の1～7）について、職員会議で職員の理解を得た上、糸魚川市教育委員会及び糸魚川市消防本部から意見をもらい計画案を修正し応募した。

1. なぜ防災教育チャレンジプランに応募するのか

- (0) フォッサマグナパークをはじめ、根知谷、雨飾山・しろ池、姫川溪谷などのジオパークは、根知の今昔を考え、これからの生活や生き方を考える上で重要な教材であり、現在も総合的な学習として取り組んでいる。2008年のユネスコ国際ジオパーク会議の採択宣言に「地質災害に関して社会と知識を共有するためにジオパークが役に立つ」という趣旨の一文が加えられた。糸魚川市は、多種多様な地質と複雑な地質構造をもつことなどから、古来より地すべり、崩落、土石流、地震・火山災害、雪崩などの地質災害が多い。糸魚川ジオパークの学習過程は、まさに大地の成り立ちや自然災害を学ぶことであり、その学ぶ過程は、私たちの生命と財産を守るための防災意識を高めていく絶好の機会である。

- (1) 防災・ジオパークの学習を進めるための予算が30万円を上限として配当され、専門家の話をきくための講師謝礼や交通・宿泊費をここから捻出することができ、これまで以上に大胆な活動を展開することができる。
- (2) 地域と一緒にになって取り組める（取り組まなければならない）活動となるため、校長の学校経営方針（地域とともに生きる）とも一致し、学校教育目標の具現化の一助になると考える。

2. 防災教育チャレンジプラン推進の基本方針

- (0) 児童や地域、教員にとって有益な活動になるようにし、多忙化に拍車をかける取組としない。

- (1) 現行の教育活動を防災教育の視点で見直し、体系化しながら関連するそれぞれの活動を再構成する。

3. 学区におけるジオサイトと自然災害の現状

(1) ジオサイト

①フォッサマグナパーク（糸魚川-静岡構造線・枕状溶岩）【サイト6】【サイト12】

糸魚川-静岡構造線断層帯に起因する地震について、政府の特別機関・地震調査研究推進本部地震調査委員会は、以下に示す地震発生確率を公表しています。他と比べて群抜いて高い確率。

予想される地震規模	M8程度		
地震発生確率	30年：14%	50年：23%	100年：41%
今後30年の間に地震が発生する可能性が高いグループに属する。			

②姫川溪谷【サイト11】【サイト13】

7. 11 水害に代表される水害（土石流）

(自由記述: 1/3)

- ③小滝ヒスイ峡【サイト9】 ④小蓮華山（氷河地形）【サイト14】
- ⑤雨飾山・しろ池の森【サイト19】
- (2) 自然災害
 - ①姫川・根知川の氾濫・土石流
 - 7. 11 水害で壊れた稻荷頭首工（姫川）が22年度に完成（アユの放流を根知小児童が行った）・根知川上流（中股川）の砂防工事（5年生の理科の学習内容として見学）
 - ②地滑り（シーサイドバレースキー場脇 蒲池の地盤の移動 道路に段差が見られる）
 - ③ナラ枯れ被害
 - ④熊・猪・猿の出没
 - 22年度は、市教委が把握した根知地区の熊の目撃情報だけで13件
- (3) 災害対策
 - ①根知川上流の砂防工事 雨飾山荘付近：小田島建設 中股川：猪又建設
 - ②治山事業（里山の手入れ） 杉の間伐
 - ③土砂災害ハザードマップの作成と全戸配布
- 4. 防災にかかわる現状（2010年まで）
 - (1) 根知小学校
 - ①年4回（火災、不審者、地震、地震火災）の避難訓練の実施
 - ②熊被害回避のための臨時スクールバス、熊出没注意の安全マップの作成
 - (2) 地域
 - 今年度市主催の地域防災訓練を根知地区全体で実施、23年度以降は自主防災組織を立ち上げ地区独自の防災訓練を検討している。
- 5. 2011年度（23年度）の生活科・総合的な学習の時間の内容（これまでの流れでは）
 - (1) 生活科の指導では、児童の活動意欲を高めるため、児童の興味・関心を発揮させながら自分と他とのかかわりを大切にし、ものごとを見つめる活動を行う。
 - (2) 総合的な学習の時間では、地域素材を生かす内容に焦点を当て、ふるさとの自然と文化、福祉と農業を中心に隔年で活動を構成していく。また、年間を通して音楽活動、外国語活動、ボランティア活動に取り組む。
- 6. 考えられる活動例

領域		23年度（25年度）	24年度（26年度）
A 教 科 等	5・6年 総合	○根知でやるまいか！ 根知の主要産業である農業を考える（守り発展させるために） ○nechi2008（男山）IWC 純米吟醸酒の社長による酒造りと米・ブナ林（里山）の関係 ○里山の現地調査（ナラ枯れ被害、地滑りの危険性） ○根知の農業事情 ○土砂災害を防ぐ砂防工事 ○田植え、水の管理、稲刈り体験 ○里山再生 ※修学旅行+1泊で里山再生プロジェクトに取り組む宇津木の森（東京都八王子市）へ ○しろ池の森間伐体験 ○しろ池200年の水利権争い	○ボランティア 防災は隣近所・地域のコミュニケーションが重要といわれている。ボランティアの輪を地域に広げることで緊急時に迅速な対応ができるようになる。
	3・4年 総合	○郷土の文化・芸能 おててこ舞（日吉神社祭礼）・十二社奉納相撲：五穀豊穰祈願	○ジオパーク学習 ○ファサマグナのメカニズム ・フォッサマグナパーク、雨飾山・しろ池、

(自由記述： 2/3)

	1・2年生活	<ul style="list-style-type: none"> ○サツマイモの栽培と非常食としての備蓄 ○地域探検→安全マップの作成→PTA安全指導部（注意看板の検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ○親を亡くしたウリ坊または小熊の飼育 飼うか飼わないか・大きくなったら山に逃がすか・・・命の教育
	5・6年理科	<ul style="list-style-type: none"> ○大地のつくり 山寺地内・フォッサマグナパークの地層観察 地震・火山のはたらきと大地の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ○流れる水の働き 水害・水害対策
B 行 事 等	宿泊体験学習	X: サバイバル体験（森小屋づくりと電気のない生活）	Y: 歩荷茶屋を用いた宿泊 Zの避難所体験を生かした宿泊
	避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ○従来の避難訓練+体験活動 or 専門家・被災体験者のお話など ①地震 ②火災 ③防犯・熊 ④地震・火災 	<ul style="list-style-type: none"> ○従来の避難訓練+体験活動 or 専門家・被災体験者のお話など ①地震 ②火災 ③防犯・熊 ④地震・火災
C そ の 他	児童会	<ul style="list-style-type: none"> ○緑の羽根共同募金・赤い羽根共同募金の意義について ○被災地への義援金集め 	<ul style="list-style-type: none"> ○緑の羽根共同募金・赤い羽根共同募金の意義について ○被災地への義援金集め
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ※地域防災組織の立ち上げ これとBのZ（避難所体験）は連動 ○避難所生活体験者及び避難所運営体験者を招いた研修会 ○避難所に必要な物品の整備 不要になった毛布の寄付依頼、非常食の備蓄 ○情報ネットワークの整備 メール配信を用いた緊急連絡通知 	<ul style="list-style-type: none"> Z: 避難所体験（学校での電気のない宿泊、炊き出し体験）+地域防災訓練との連携（大雨による土砂災害 or 地震） 被災体験者、避難所運営者のお話 ※PTC行事または地域行事として実施 週休日または夏休み中

1年目のチャレンジプランは5・6年生の総合を核として実施するのはどうか。

また、単年度ですべて実施することは困難であり、単年度で終わらせる内容ではないため、上記内容を2～3年次計画（A～Bは2年サイクルで実施）で進める方向でどうか。

2011年度防災教育チャレンジプランの実践を通して

学校において防災教育を推進していく中で、防災教育に関しては、国・県及び市町村行政における教育行政の立ち位置があいまいに感じられた。学校教育の中に、防災教育のカテゴリーはなく、安全教育・安全指導の中で行われている。現行の学習指導要領になってから、自然災害に対する防災教育的な視点の内容が増えていることは確かだが、防災教育を教科学習等で実践している意識にはなりにくい。

あれもこれも学校教育に盛り込むことは反対だが、有事の際は、学校が避難所になることは明らかである。しかし、消防本部（防災室）と教育行政との連携は薄く、防災室もこれまでで生活課やこども課（教育委員会）との連携に課題（壁？溝？）を感じており、学校を巻き込んだ活動には抵抗をもっていることも分った。分厚い防災マニュアルを作成することに終始せず、学校を巻き込んだ実質的な防災訓練や防災教育が行えるよう、行政主導で推進していくシステムをつくる必要があると感じる。それは、釜石市の取組でも実証されている。市町村、少なくとも都道府県単位で角田先生のようなコーディネーターが必用であると感じる。

こうしたことを意見として教育委員会や防災室に投げかけたことで、当校を交え、来年度以降の市の防災教育について、三者間で懇談する機会ができたことはかなりの前進である。

（自由記述：3/3）